



タルサカウルの前で「はい、貴先生と一緒に研究中。女性のニヤヒシグさんはアンキロサウルス類(ヨロイ竜)を林昭次先生と一緒に研究中です。二人は現在来日中のモンゴル科学アカデミー古生物学研究所の若手研究員です。男性のフヤンは寒すぎて調査不可能。なのでこの時期にモンゴルの研究者とこちらの大学の研究機器を使

ゴビ砂漠東部のがで、地層のむき方を議論する貴先生とフヤンさん、岡山理大生たち

共同研究は平和をつくる



左からニヤヒシグさん、石垣、フヤンさん

いながら共同研究します。夏の調査成果を論文にするのも大きな仕事。論文はすべて日本人数名とモンゴル人数名の共著です。とすれば忘れがちな点がありますが、恐竜は私たちの研究対象であると同時にモンゴルが世界に誇る最高の宝物でもあります。そんな宝物を「調査させていただきます。そのことを話しています。モンゴルの研究者と日本の研究者が力を合わせて一緒に取り組む研究をやる。そして一緒に発展していく。それが国際共同研究の良いとです。いろいろな協力を進めること、互いの文化や習慣を理解することにもつながります。恐竜研究で世界平和。関係が、実は深くつながっていると思は

アンキロサウルス類の復元画



林昭次先生の研究チームの一つはアンキロサウルス類の体の中の骨と、体の表面をおおっている骨板のこまかな構造を顕微鏡で観察して、恐竜の成長を調べることで、ごつごつのイメージですが、子どもたちがわかってきました。

まめ 豆 ち 知 識



岡山理科大教授・石垣

日本とモンゴル 国を超えた協力

恐竜調査隊

が行く